

名古屋の寺院に関する

木版資料について（七）

川口 高風

一、太閤山の太閤の絵図（仮題）

豊臣秀吉が誕生した遺跡である太閤山常泉寺（中村区中村町）の由緒を記した「略縁記」（本稿（一）で翻刻した）とともに出された一枚刷である。秀吉公の画像の上には「開運豊国大明神」とあり、横に「御誕生舊地」、下段には「尾陽中村太閤山」と記されている。

二、寺院肝内 案内

木版摺の一枚物である。欄外に「関通袈陌円輪寺」とあり、円輪寺（中区錦）住職の関通が出版したものかと思われる。刊行年月日は不詳であるが、福島コレクション（熱田区役所まちづくり推進室蔵）には「天保七丙年六月吉日 吉村氏」の書き入れがあり、天保七年（一八三六）六月以前に刊行されたものに

名古屋の寺院に関する木版資料について（七）

吉村氏が書き入れたものであろう。天保七年頃の名古屋寺院を寺格、伽藍で順位づけたものと思われるが、誤った寺名になっている寺院が十一カ寺みえる。それをあげると相王寺、聖得寺、政周寺、大高院、白倫寺、尊儒院、万正寺、福満院、高田本房、健中寺、天王房、功德寺、衆福院、鷲梅寺、洞仙院である。その理由は不詳であるが、尾張藩と深い関係のある寺院のため、故意に変えたのであろうか詳しいことは明らかでない。

三、本尊略縁起

浄念寺（中区丸の内）の本尊安阿弥作の阿弥陀如来の縁起である。浄念寺は元、清須の朝日にあり、観音院と称して天台宗であった。本尊は定朝作の聖観音であったが、土方出羽守治氏の子慶恵が住持であった時、浄土真宗に帰依して蓮如上人の弟子となり、上人の六字名号などを御染筆して与えられ浄念寺と改号した。四世常真の時、源君は時々参詣され、慶長年間（一五九六―一六一四）の末頃、寺西半左衛門と本多寿甘は帰依仏に附属品などを添え納めた尊像であった。この尊像の功德や多くの靈験、御利益のあることが述べられている。元禄四年（一六九一）二月に記された縁起に、弘化三年（一八四六）十月に御門主より霊像へ宮殿を免許されたことなどの附言が加えられて木版刷されたものである。

四、粟殿森藪香物略縁記

粟殿森宮は神代に伊弉諾、伊弉尊が五穀を作って農業耕作の道を教えた神である。また、藪の香の物が生まれたわけ、それを熱田皇太神宮へ送った由来などが記されている。参詣した人々はそれを諸人へ言い伝えて敬い尊ぶことも記している。同社の社僧であった正法寺（あま市上萱津）より木版刷されたものがある。

五、尾州春日井郡一色庄豊場村万松山常安寺本尊略縁記^(ついで)

常安寺（西春日井郡豊山町）の本尊の縁起である。本尊は赤梅檀の香木で彫刻された仏像。肥後国如来寺に安置していた本尊を応永年中（一三九四―一四二七）に溝口富之介が懇請して常安寺の本尊に安置したものである。一枚刷で「春日井郡一色庄豊場村」とあるところから江戸期のものであろう。

六、尾州春日井郡豊場村萬松山常安寺本尊略縁記^(ついで)

(五)とは異なり、二丁冊子になっている。表紙に題があり、内容は(五)と同意文である。江戸期の刊行であるが、(五)よりは新しいものと思われる。

七、尾張准西国三十三所順礼図

江戸期の刊行で一枚刷である。尾張地方の西国三十三カ所に准じた観音霊場の順礼図である。甚目寺の観音堂を一番に、現在

の清須市新川町、名古屋市東区、小牧市、春日井市、守山区吉根、瀬古、北区味鏡、下飯田、南区笠寺、中区古渡、中川区荒子、あま市、津島市、稲沢市、一宮市、江南市の霊場を廻り、最後の三十三番は犬山市継尾の蓮台寺となっている。刊行所は不詳である。

八、大鐘再建勸募誌

明治二十一年九月に福田寺（知多市日長村）十八世杉野良宗が大鐘を再建するための勸募誌である。元禄八年（一六九五）二月に七世が建立していたが、十六世代の文政元年（一八一八）一月一日に祝融にあい、音色が悪くなって再建することになった。十一月十日に大鐘供養が行われるという。

九、曹洞宗萬松山常安寺境内之図

明治三十一年八月に東京市浅草茅町の精行社銅版部が作成したもので、「略縁起」は山腰弘道が撰述し、境内図は東濤舎の巴凌が書写している。先に紹介した(五)(六)の常安寺本尊の略縁記などからまとめられたもので、明治期の境内、伽藍の配置が明らかになる。

十、仏法双六（仮題）

坂家菩提所の得善院（現在、中区丸の内）より木版刷された「仏法双六」（仮題）である。得善院は初め靈光院と称していた

が、明治三十一年に坂文四郎（明治四十年三月十六日寂、得善院積真薬西證）によって建立され寺号を改めた。木版刷に彩色が施されており、仏教語、短歌、信善疑悪で評している。

十一、医王山成福寺薬師如来縁起

成福寺（北区瑠璃光町）の境内にある別堂の本尊の薬師如来の縁起である。大正十五年十月に薬師堂を改築し、その開帳供養記念として刊行されたもので、同寺二十四世中野擔道が記したものである。薬師如来像は身丈三尺八寸の立像で理趣仙人の作である。仙人が鳳来寺の本尊薬師如来を彫刻した同木自作といわれ、それを成福寺へ勧請された理由は不詳である。江戸期には南西の新道沿にあったが、土侍が落馬したり怪事が多いことから、信者らは薬師堂を境内の西南東向に新築して薬師如来を移し、本堂には別に釈迦如来像を請して本尊としたところ怪事はなくなつたという。明治二十四年の濃尾震災によって堂宇は潰倒したが、薬師如来や十二神将像は損傷がなかった。その後、改築がなされて大正十五年十月に入仏供養が行われた。

十二、尾張瀬戸靈利大龍山雲興寺之全景図

雲興寺（瀬戸市白坂町）の全景図である。瀬戸電の「尾張瀬戸駅」が載っているところから、駅ができた以後の刊行であろう。しかし、明確な刊行年月日は不詳である。著作代表者は磯村力松、発行兼販売者は熊崎住恵で、案内略符と性空石などの

所在地も記されている。

十三、知多四国八十八カ所巡礼図（仮題）

知多四国八十八カ所霊場の巡礼図である。一枚刷で各札番所から出されたものと思われるが、本紙は最後の八十八番円通寺（大府市共和町）からのものである。木版のカラー刷で、江戸期のものであると思われるが、明確な制作年次は不詳である。

十四、大布薩宣伝

昭和四年十月十一日に宝積院（知多郡内海町）で大布薩式法要が行われるため、参加を勧める宣伝の一枚刷である。

十五、天医山東高寺薬師如来之御縁起

東高寺（北区金城）の境内にある薬師如来の縁起である。薬師如来は身丈一尺二寸の座像で、聖徳太子の作。太子が大飢饉で疫病がはやり、多くの人が亡くなった時、世を憐みて彫刻したものである。江州志賀の里に一字を建立して安置され、織田信長が叡山を焼き払った時、御本尊の霊夢によって東高坊がこの尊像を奉り、生国の奥州田村郡の里へ行く時、この地の医師平手挑庵宅に止宿した。しかし、そこで病に臥し亡くなった。そのため平手挑庵は小堂を建立して祀り、志賀薬師といわれるようになった。以来、開帳が行われ、十九世近藤良範が印施した縁起書である。

名古屋の寺院に関する木版資料について(七)

禪黃橘	日蓮東寺	淨鎮門前	淨西南寺	淨鎮矢場	禪關新道	本西櫻陌	淨鎮南寺	日蓮法花	禪關南寺	禪曹門前	禪關門前
護国山東輪寺	妙日山妙蓮寺	正覺山阿弥陀寺	永照山西光院	德壽山清淨寺	玉峯山海福寺	荷上山興善寺	重寶山養林寺	啓運山法花寺	東海山白倫寺	興國山大高院	景陽山惣見寺
淨西日蓮	淨鎮東田	淨鎮上高	淨鎮南寺	淨鎮法花	淨鎮東寺	淨鎮中下	天台西水	淨鎮東寺	本西入江	本東櫻陌	淨鎮南寺
法皇山法然寺	延壽山本成寺	護念山證誠寺	長久山園頓寺	永陽山法藏寺	大寛山本正寺	撰取山遍照院	高木山宝周寺	不老山八角堂	一柳山正覺寺	四寶山圓通寺	五臺山尋盛寺
高日禪本	日蓮曹	日蓮曹	日蓮曹	日蓮曹	日蓮曹	日蓮曹	日蓮曹	日蓮曹	日蓮曹	日蓮曹	日蓮曹
車花	マ	玉	法	法	法	法	法	法	法	法	法
至壽東覺淨本照長常普延本瑞壽壽蓮清妙光	誠元泉正運要遠照瑞藏文廣立雲高顯經勝安住明	院寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺	院寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺	院寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺	院寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺	院寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺	院寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺	院寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺	院寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺	院寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺	院寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺
日禪同禪本禪本禪本日禪本禪本同同天禪同本禪日同本	光山南五南南南南南南南南南南南南南南南南	明下南五南南南南南南南南南南南南南南南南	妙龍全興東教光教玄久東大善願福寶建義西梅門開	行盛雲香西連泉眞受乘宝漸永龍行泉泉昌照源屋立安勝	院寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺	院寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺	院寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺	院寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺	院寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺	院寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺	院寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺
本禪淨同禪淨禪本淨淨日禪本同同同禪本淨禪同日本	東南平サ万三廣住東東東東東東東東東東東東東東	田寺田コヤ井吉寺吉寺吉寺吉寺吉寺吉寺吉寺吉寺	宗宝平祥金傳雲福東真法久眞大照宝洞大善隆金本願万	円泉田隆剛光門恩充福法廣泉運泉仙用導生仙龍性福	院院院院院院院院院院院院院院院院院院院院院院						
清淨黃同同日	涼久出桜古法	山ヤ末渡花	同禪同同淨禪淨淨禪本禪眞淨眞禪	、総桑本、南、東、瓦、南、正、前、津、	院寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺						
栄誓大本遠寺	霊常	國願龍寺通所	東陽業卷清法泰自正淨眞長法林觀曹	院寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺	院寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺	院寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺	院寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺	院寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺	院寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺	院寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺	院寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺

關連系圖輪寺

寺院案内

天長山尊儒院

持名山高七ッ院

東高田本所

德興山健中寺

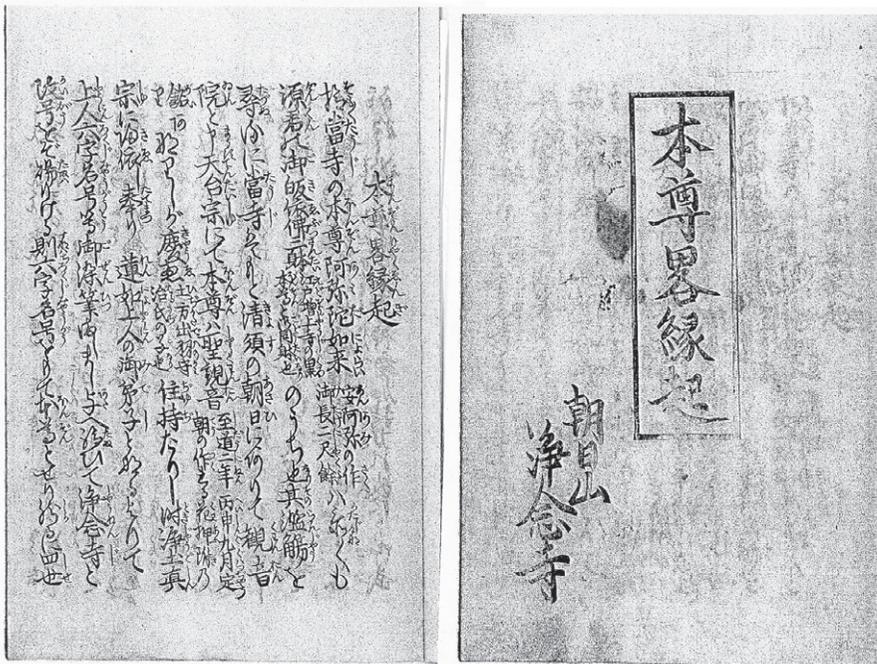
龜尾山天王房

真言大須	淨鎮光明	禪曹東寺	禪曹東寺	禪曹門前	日蓮法花	本東住吉	淨鎮門前	禪關伏見	禪關南寺	本東富沢	淨鎮山口
北野山眞福寺	終南山光明寺	鷲嶺山含笑寺	泰岳山永安寺	靈松山善篤寺	本覺山長榮寺	渡辺山守綱寺	大雄山性高院	曹澤山大林寺	瑞雲山政周寺	七寶山聖得寺	寶龜山相王寺
日蓮法花	淨鎮東寺	淨西建中	淨西天道	淨西上高	淨西橋下	淨西門前	淨西水主	淨鎮東寺	淨鎮東田	淨鎮飯田	淨鎮堀川
壽量山妙本寺	淨長山光照寺	源頭山情妙寺	龜松山德林寺	阿原山慶榮寺	七面山妙善寺	宝龜山西願寺	教報山極樂寺	長島山崇覺寺	童江山長園寺	廣井山長德寺	朝日山淨念寺
本東東	本東東	本東東	本東東	本東東	本東東	本東東	本東東	本東東	本東東	本東東	本東東
赤新道	ミソ	セウ	伏見	新道	南寺	舍朝人	法花	南法	南法	南法	南法
心正正来浄法誓長久貞淨妙大安法瑞宝福光元	海覚福迎願藏願榮遠祖芳泉運用輪宝林滿園興	寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺									
本眞本同眞本同禪同同本禪淨禪同天眞同本禪眞禪	袋サツカ	伊羅	堀切	前張	南	東	東	東	東	東	東
善方善延醫安長永樂正覺天玄正千円東千浄光敬宋正善	林等行命王浄全林運敬音寧周福業敬漸手信蓮円吉寛久	院院院院院院院院院院院院院院院院院院院院院院	院院院院院院院院院院院院院院院院院院院院院院	院院院院院院院院院院院院院院院院院院院院院院院							
同禪淨禪本眞禪日淨日淨禪日禪同同眞淨禪眞禪同眞本	東五笹東出シトカ法カ法東東ス柳中橋三水東関南中袋九	寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺									
衆元善松寛長安蓮親眞慈泰法周大寛東蓮乾万功永福円	福寧国徳恩榮清華音柳眼雲輪泉宝殿光花徳福徳正生明	院院院院院院院院院院院院院院院院院院院院院院院									
妙同同本禪淨	瑞矢具本久東	山ハ服重ヤ寺	總、万、長、性入正前廣桜、東中	院寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺							
大法乘理瑞善	光西相光	寺寺寺寺寺寺	光永万福威善祢一涼持泰新靈鷲安林	院院院院院院院院院院院院院院院院院院院院院院院							

三、本尊略縁起

本尊略縁起

抑當寺の本尊阿弥陀如来安阿弥の作御長三尺余は、忝くも源君の御帰依仏
 三牀江戸増上寺の黒本尊と御同体也のうち也。其濫觴を尋るに當寺はもと清須の
 朝日にありて観音院と申天台宗にて、本尊は聖観音至道二年丙申九月、定朝の作れる花押附の銘あり
 なりしが、慶恵土方出羽守治氏の子也住持たりし時、浄土真宗に
 帰依し奉り、蓮如上人の御弟子となる。よつて上人、六字名
 号等御染筆ましまし与へ給ひて、浄念寺と改号をぞ賜りけ
 る。則、六字名号をもて本尊とせり。然るに四世常真、源君
 の御かへりみ厚く、殊に當寺えをりく成せ給ひ、深き由緒
 ありて慶長の末、寺西半左衛門、本多寿甘をもて御帰依仏に
 附属せし調度を添させられ納め給ひたる尊像也。源君、勇威
 を四海に振ひ政務を万機に計らひ、久年の乱世を治め、天下
 泰平を万代に伝え給ひしも、偏に此尊像に御願をなし給ひ、
 他力の安心を極め、称名念仏怠り給はざりし御功德によれり
 とかや。仰ぎおもむ見れば禍を転じ福となし、重を軽きにう



尾州海東郡萱津邑

粟殿森藪香物略縁記

粟殿森藪香物略縁記

抑おさ此森このもりの由来ゆらいを尋たづるに、伊弉諾伊弉册尊いさなぎいさなみのみことにして日本男女なんによの根神也こんじん。神代かみよの往古むかしに五穀ごこくを作り、初め農業耕作のうぎやうこうさくの道みちを教給おしふ御神也おんかみ。これによりて粟は五穀の惣名そうみやうたる故に諸しよ民尊にんたつとんで粟殿森太神宮あはでのもりたいじんくうを崇あがめたてまつる。しかれば民に産業なりわいの道みちを教玉をしふ御神なるゆへに、皆尊みなたつとんで一切いっさいの作り初穂はつほを献上けんじやうし奉る。所謂御社いわゆるみやしろの傍かたはらに一つの瓶かめを置おき、茄子なす瓜大根塩等うりだいこんしほの御初穂此瓶あげへ上奉あがる于時にんわちう。人皇十二代景行天皇けいこうてんわうの御宇ごよう、皇子日本武尊わうじやまとたけのみこと、東夷御征罰あづまのむらたけのむらたけに趣おもむかせ玉たまふ。因ちなに此森このもりに御志願ごしげんゆへ参籠さんろうましくして神前しんぜんの瓶かめの中野菜等うちやさいとうを御覧ごらんあり有あり難がたく御頂戴ごてうだいあり。是は藪やぶの香かうの物ものと御賞歎ごしやうたんましくしてより、初はじめて香かの物ものの名天下なめたに伝つたふ。是本朝最初これほんてうさいしよの香かの物もの也なり。夫迄それまでは世に香かのものといふ事を知らされは其風味ふうみもしら

ず誠まことに御神みかみの香かの物也なり。尊たつとむべきもの歎なげ。其後日本武尊そののち日本武尊は熱田皇太神宮あつたごうと成たまふ。右熱田皇太神宮御利運りつん有ありし御吉例みきちれいの香かのものゆへ年々りやうとつと両度宛藪りやうとつとの香かの物ものを熱田皇太神宮あつたごうへ送おく

り神具しんぐに備へ奉る。此粟殿森太神宮このもりたいじんくうは従来五穀成就じやうじゆの御神みかみなれば諸人しよじん今日けふをおくり明日あすを樂たのしむも此御神このみかみの御利益みりやく也なり。

一度此森ひとたびこのもりに参詣さんけい有ありし人々は諸人しよじんへもいひ伝つたふべし。我も敬うやまひ尊たつとむへき者也なり。

尾張国萱津郷

日東山正法禅寺

五、尾州春日井郡一色庄豊場村万松山常安寺

本尊略縁記

尾州春日井郡一色庄豊場村万松山常安寺本尊略縁記

持當寺本尊は昔一色公優闐國の大王。如來本尊信心
發奉し佛りに謂く佛滅後五百年衆生のため本尊像
彫刻し奉る。時、那律目連等の佛弟子に是を議し
法不附し摩利山の赤梅檀は善根力の所感によりて生ずる所の香木
に摩利山の赤梅檀は善根力の所感によりて生ずる所の香木
なり。これを得て毘首羯摩天をして彫刻せしめ、終に
如來に異ことあらせ給はず。西天竺に留り給ふ事千二百余
歳なり。それより佛法を弘ため震旦國に渡せ給ひて六百
年を経給へり。その後吾日本國に東大寺の奄然沙門入宋し
拜請して帰朝す。是則一條院の御時永延元年なり。今の
京城、嵯峨の本尊と和州法隆寺に仙人の像といへる出山の
釈尊を、肥後國如來寺に安置し在本尊ともに、同木同作
の靈像也。しかるに応永年中、大檀越領主藤原朝臣溝口富之
介、肥後の國に縁あるを以て、彼の如來寺の尊像を懇請
し、その報恩にとて、永樂錢百貫文如來寺に奉納し、當寺の
今從教尊像を彌留を以て之を奉る

名古屋の寺院に関する木版資料について(七)

尾州春日井郡一色庄豊場村万松山常安寺本尊略縁記

抑當寺本尊は、昔し西天竺優闐國の大王。如來を信心敬奉の
余りに謂く、仏滅度後五百年の衆生のために如來の尊像を
彫刻し奉る。ま、那律目連等の佛弟子に是を議し給ふ。時
に摩利山の赤梅檀は善根力の所感によりて生ずる所の香木
にして、一度その香に觸るものは、億劫生死の罪垢を脱す
となり。これを得て毘首羯摩天をして彫刻せしめ、終に
如來の尊容を寫し奉れり。これ仏像の最初にして、生身の
如來に異ことあらせ給はず。西天竺に留り給ふ事千二百余
歳なり。それより佛法を弘ため震旦國に渡せ給ひて六百
年を経給へり。その後吾日本國に東大寺の奄然沙門入宋し
拜請して帰朝す。是則一條院の御時永延元年なり。今の
京城、嵯峨の本尊と和州法隆寺に仙人の像といへる出山の
釈尊を、肥後國如來寺に安置し在本尊ともに、同木同作
の靈像也。しかるに応永年中、大檀越領主藤原朝臣溝口富之
介、肥後の國に縁あるを以て、彼の如來寺の尊像を懇請
し、その報恩にとて、永樂錢百貫文如來寺に奉納し、當寺の

本尊と安置し奉れるもの也。かたしけなくも日本に三体の靈像一回帰仰拝礼の輩、億劫生死の罪を解脱せずといふ事なし。於戯小の縁にあらず。委は本縁起に著。

毎年二月十五日大涅槃就當寺國中貴賤男女集会

今猶如昔、依て預略之、以施之令知之。

六、尾州春日井郡豊場村萬松山常安寺本尊略縁記

尾州春日井郡豊場村

萬松山常安寺本尊略縁記

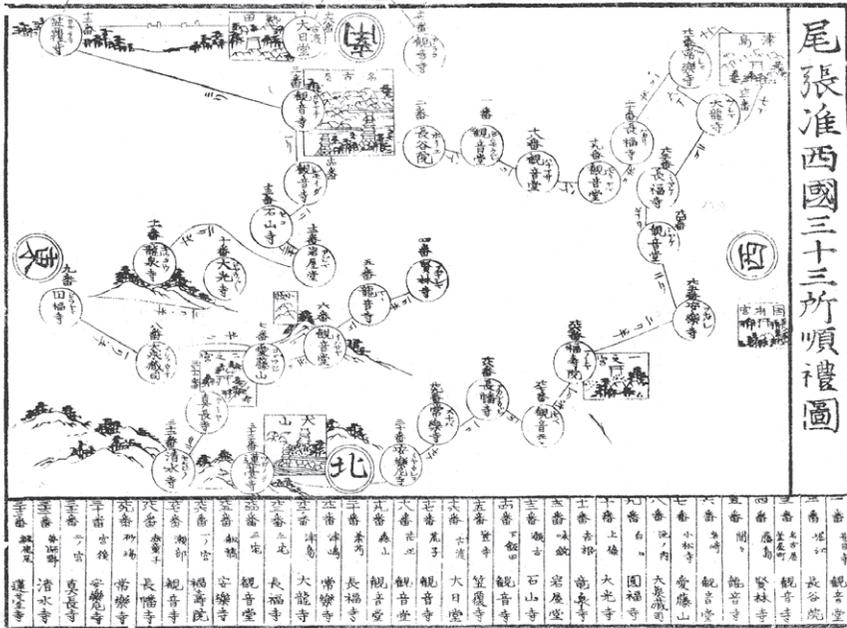
抑當寺の本尊釈迦如来は、往古西天竺優闐国の大王深く如来を恭敬供養の余り謂らく、仏滅後末世の衆生仏経をき奉るとも、いかんしてか如来の尊容を見奉らんや。願くはわれ尊容を彫刻奉り、末代濁悪の衆生の為にせんと。是を大弟子迦葉尊者に相議し、幸に摩利山の名木あり。赤栴檀と称す善根力の所感にして、一たびその香をきくものは、億劫生死のつみを脱るゝときく。即ち神通第一目連尊者をしてこれを得せしめ、毘首羯摩天に命じて如来の尊容三十二相八十種好を彫刻し奉れり。これ仏身を木像に移し奉る最初なり。実に生身の如来に異ならんや。西天にましまし、衆生を濟度したまうこと千二百余年、震旦に渡らせたまひて六百余年を経たまへり。我朝 一条院の御宇永延年中、



東大寺齋然法師入宋して拜請し奉り、帰朝後肥後国に伽藍を建立し安置し奉る。如来寺と号するは是なり。京北嵯峨清涼寺の本尊、和州法隆寺の本尊、同木同作なり。然るに応永年中當寺開基藤原朝臣溝口侯、事に因て九州に下向す。其頃如来寺大に頽廢して、如是の靈像随侍の僧なし。故に侯永樂錢百貫文を寄附し、此如来を招請、即ち當寺の本尊と仰奉る。三国に三体の尊容、不残我朝に渡り給ふ事、仏法東漸の仏勅めに疑ふべけんや。よりて一たび恭敬礼拝の衆生、生老病死の苦を解脱し速に無上正等菩提を證せん。現當両益今猶古のごとし。委くは本縁記に著明なり。

毎年二月十五日國中貴賤當寺に群集して尊容を拝するごと、今猶如昔、依て略記、以布世尔り。

七、尾張准西国三十三所順礼図



尾張准西国三十三所順礼図

一番	甚目寺	観音堂
二番	堀江	長谷院
三番	名古屋	観音寺
四番	藤島	賢林寺
五番	問々	龍音寺
六番	岩崎	観音堂
七番	小松寺	愛藤山
八番	池ノ内	大泉蔵司
九番	白口	円福寺
十番	上條	大光寺
十一番	吉根	竜泉寺
十二番	味鏡	岩屋堂
十三番	瀬古	石山寺
十四番	下飯田	観音寺
十五番	笠寺	笠覆寺
十六番	古渡	大日堂

十七番	荒子	観音寺
十八番	花正	観音堂
十九番	森山	観音堂
二十番	葉苺	長福寺
二十一番	津嶋	常楽寺
二十二番	津島	大龍寺
二十三番	三宅	長福寺
二十四番	三宅	観音堂
二十五番	船橋	安楽寺
二十六番	一ノ宮	福寿院
二十七番	瀬部	観音寺
二十八番	赤童子	長幡寺
二十九番	砂場	常楽寺
三十番	宮後	安楽尼寺
三十一番	二ノ宮	真長寺
三十二番	善師野	清水寺
三十三番	繼鹿尾	蓮台寺

八、大鐘再建勸募誌

大鐘再建勸募誌

夫レ大鐘ノ功德ハ廣大無邊ニシテ朝ニハ六道輪廻ノ夢ヲ破リ晝ハ中道実相ノ理ヲ知セ暮ニハ世間無常ノ事ヲ告ケ依之テ一日モ欠ク可キ者ナランヤ

千送元禄八年仲春ノ日七世代志願ノ方アリテ建立セシガ其後文政元年一月一日十六世ノ時祝融ノ災ニ罹リニ十方ノ信男信女等莫ハ多少ニヨラス一俣手ヲ出シテ淨財喜捨ヲ請テ再ビ大鐘建立ノ上仏菩薩有縁衆中並ニ二十方ノ信男信女等、翼ハ多少ニヨラス一俣手ヲ出シテ淨財喜捨ヲ請テ、再ビ大鐘建立ノ上仏菩薩功德海中ニ無漏ノ大円通ニ入テ子孫永世ナラント爾云。

愛知県知多郡日長村 福田寺住職 杉野良宗印

明治廿一年九月

徑貳尺貳寸

一金三十錢以上御志願被下候御方ハ御座次第法名俗名大鐘ニ彫刻仕候事 但古鐘並佛具古金物等御新入奉願候也

一壹番 鐘
一貳番 鐘
一三番 鐘

右之鐘ニ御座候間御志ノ多少ニヨラス奉願上候也
一當寺本年十一月十五日ヨリ多江御會並被下候御方御座候御方右大鐘供養ハ十一月十日ニ政執行候間右日限ニ御座候御方被下候事

明治廿一年九月

知多郡日長村 寺印
全 備後郡代 細川金六印
全 信濃郡代 吉川徳之助印

名古屋の寺院に関する木版資料について(七)

大鐘再建勸募誌

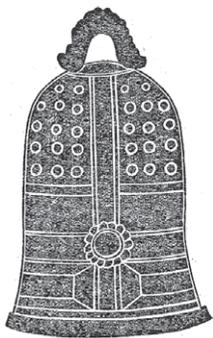
夫レ大鐘ノ功德ハ廣大無邊ニシテ、朝ニハ六道輪廻ノ夢ヲ破リ、晝ハ中道実相ノ理ヲ知セ、暮ニハ世間無常ノ事ヲ告ク。依之テ一日モ欠ク可キ者ナランヤ。

千茲元禄八年仲春ノ日、七世代志願ノ方アリテ建立セシガ、其後文政元年一月一日、十六世ノ時祝融ノ災ニ罹リソレカ為メ、鳴リ音悪クナリシモ自力ニ及ヒ難シ。今回有縁衆中並ニ二十方ノ信男信女等、翼ハ多少ニヨラス一俣手ヲ出シテ淨財喜捨ヲ請テ、再ビ大鐘建立ノ上仏菩薩ニ供養セント欲ス。因テ、各々善根山上ニ福寿ヲ増長シ、功德海中ニ無漏ノ大円通ニ入テ子孫永世ナラント爾云。

愛知県知多郡日長村 福田寺住職 杉野良宗印

明治廿一年九月 杉野良宗印

徑式尺貳寸



一金三十錢以上御志納被下候御方ハ、御望次第法名俗名大鐘

ニ彫刻仕候事

但古鏡並仏具古金物等御施入奉願候也

一壹番鐘

一貳番鐘

一三番鐘

右之通ニ御座候間、御志ノ多少ニヨラス奉願上候也

一當寺本年十一月十五日ヨリ冬江湖会並授戒致執行度候付、

右大鐘供養ハ十一月十日ニ致執行候間、右日限ニ御參詣可

被下候事

知多郡日長村

明治廿一年九月

福田寺印

全 信徒惣代

細川金六印

全 信徒惣代

吉川徳之助印

九、曹洞宗萬松山常安寺境内之図

略縁起

當寺創立ノ地ハ、村ノ東北隅一ノ高地ニアリ観音山ト云フ。今誤テ岡ノ山ト呼フ。高數十間周囲壹里ニ余レリ嶺平ニシテ、咸ク耕地トナル。往古弘仁三年、僧空海七堂伽藍ヲ建立シ真言開宗ノ道場タリ。保元平治ノ際、兵焚ニ罹リ荒廢地ヲ建ツモ、其南ニ塔ノ前堂ノ構、其西ニ養梅軒、北ノ坊奥ノ坊等ノ古跡ヲ存セリ。後永享年中村ノ領主溝口富之助氏荒廢ノ寺跡ノ存スルヲ追慕シ、城門木戸ノ西隅ニ移シ再興シ改宗シテ、熱田円通寺ノ二世明谷義光禪師ヲ請シテ開山トス。後十二年嘉吉元年九月九日溝口氏卒ス。法名常安寺殿築山良英大居士、後チ七年文安五年六月五日、全氏室没ス。即チ萬松院殿鉄巖妙心大姉、此ニ靈溝口蔵田公ノ父母ナリ。後三十三年文明十四年十月十二日開山明谷義光和尚示寂ス。後チ四十二年、大永元年二月十五日溝口蔵田肥後国に往ケル帰ルサニ、河尻ヲ過キ惟ヘラク此地ニ三国伝来ノ靈像釈尊ノ座マス

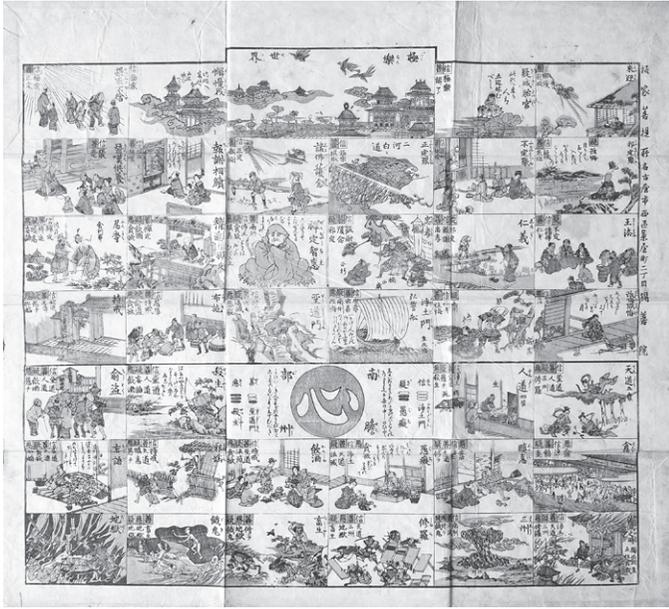
名古屋の寺院に関する木版資料について(七)



ト聞ク。尋ネ詣テ拝スルニ堂破レ朽ナントス。悲思帰順シテ
住持大堯義天禪師ニ謀リ、再ヒ河尻ニ往キ土地ノ同行ニ議シ
永樂錢百貫文ヲ寄附シ、請シテ本尊トス。脇土迦葉阿難共ニ
赤梅檀ノ瑞像昆首謁摩天ノ作ナリ。古今陰曆二月十五日涅槃
ノ忌遠近ノ信者詣スル者山ヲナス。委クハ寺伝ノ本縁起ニ詳
ナレバ爰ニ略ス。

明治三十一年八月誌

十、仏法双六（仮題）



仏法双六（仮題）

名古屋市西区茶屋町二丁目 得善院版 木版色摺60×65 cm
表紙付 一枚

十一、医王山成福寺薬師如来縁起

愛知県名古屋市東区下飯田町

医王山成福寺薬師如来縁起

當寺境内別堂本尊薬師如来尊像御身丈三尺八寸立像理趣仙人
一刀三礼の作也
抑も忝なくも御由来を案ずるに、人皇四十三代文武天皇
大宝元年辛丑勅命に依て、理趣仙人參州鳳来寺の本尊薬師
如来を彫刻し奉りし、因みの同木同作と伝へらる。何年の
頃より當寺の本尊に勧請せしやは不詳なれども、医王山と
称するも故あるなり。然るに旧藩の時、南西の新道を駈る
土侍往々に落馬し、或は怪事多かりしと藩主怪み命じて
卜せしむ。欽み答て曰く、北方に靈仏あり不知と雖ども崇
礼せざりし故ならんと。然してより十方有縁の信者と共に堂
于を境内の西南東向に新築し薬師如来を移し奉つり、本
堂には別に釈迦如来を請して本尊となせしかば、後ち向上
の怪事なかりしとぞ。

茲に不幸なるは、明治二十四年濃尾の大震災に堂宇壊倒の厄を免かれず。然るに不思議なるは本尊薬師如来を始め十二神将の御像些の損所なし。之偏へに靈仏の応現奇瑞を末世の我等に示し給ふの然らしむる處なりと。今尚見聞の男女随喜伝称す。爾後改築の機至らず、靈感を損するの念恐れ悲しむ歳久しかりしも、今や有縁檀信の願力に依て茲に改築成就して入仏供養を厳修す。

夫れ我等清き鸞嶺の秋の月は遠く三千年の雲に隠れ馨ぼしき、龍華の春の風は遙かに五十六億万の歳を隔つる。澆季の運に生を受け身は二仏の中間に有と雖ども、忝なくも薬師如来の慈光を蒙り生死長夜の苦を逸かれ福慧を増長し無病息災子孫長久の快樂を得るは、是れ偏へに瑠璃光如来の恩光に非ずや。冀くは有縁の信者常に祈願せば、悉く水月の冥感を蒙り、現當二世の利益を得て諸願成就すること鏡に影の映るが如くならん。茲に諸人結縁のため毎歳十月十二日特に大祭法会を厳修す。伏して仰ぎ願くは薬師如来慈愍を垂れ、有縁の衆生を守護し玉へ。

薬師本願功德経 曰。

名古屋の寺院に関する木版資料について(七)

薬師如来本菩薩道を行ずる時十二の大願を發して諸の有情をして求る所皆得せしむと。云云又曰く。薬師如来に十二葉又大將あり。俱に各七千の眷属あり同時に声を挙て仏に白て言さく世尊我等今は仏の威力を蒙て世尊薬師如来の名号を聞くことを得たり。復更に悪趣の怖あらず、我等相率て皆同じく一心に乃至盡形仏法僧に帰依し誓て一切の有情を荷負して為に義利をなし饒益し安樂にすべしと。云云又曰く。諸の有情衆病に逼迫せられ貧窮多苦、我

南無薬師衆病悉除の願なれば

唱ふる人ぞ無病息災

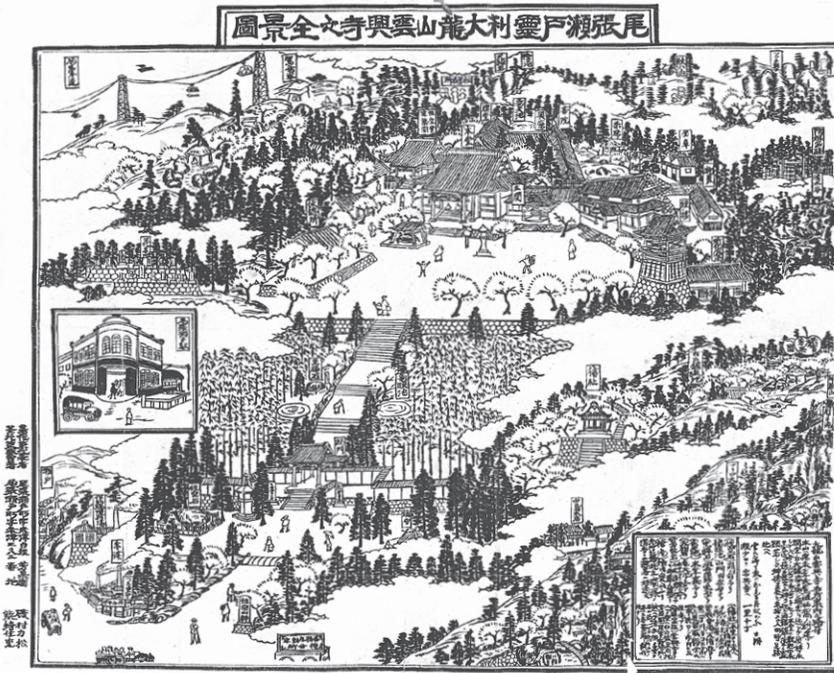
維時大正十五年十月薬師堂改築竣工紀念

全月十二日より十四日迄入仏開帳供養

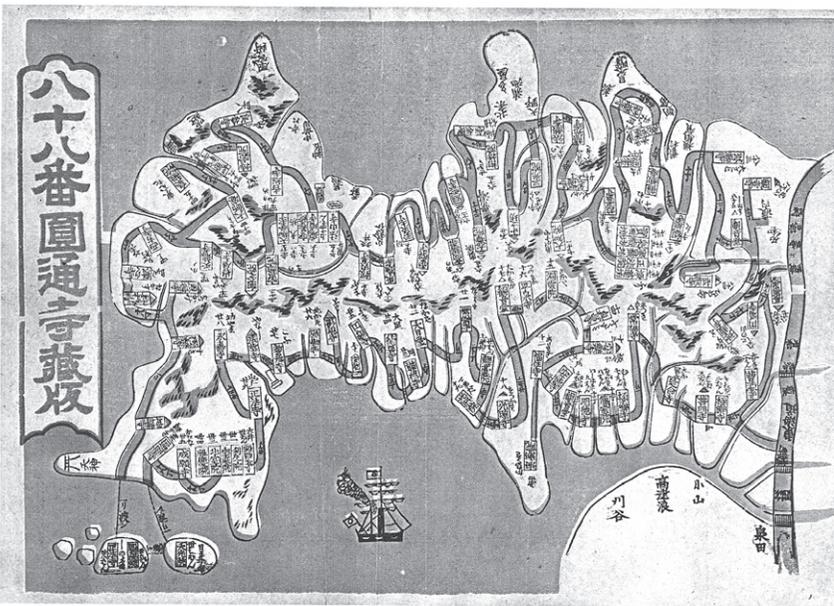
成福寺二十四世

中野擔道 謹誌

十二、尾張瀬戸靈利大龍山雲興寺之全景図



十三、知多四国八十八カ所巡礼図（仮題）



十四、大布薩宣伝

◆ 大布薩宣伝

罪有りト知ラバ、特ニ懺悔スベシ、懺悔セザレバ罪益々深シト、佛ノ訓誡シ玉フ所ナリ。吾等オ互ハ、不知ノ間ニ、無限ノ罪ヲ造リテ、苦ヨリ苦ニ入りテ決シテ他ヨリ、罪ヲ持チ來ルニ非ラズ。疑心即之罪ト、此ノ罪ヲ例ヒ一日タリトモ、抜キ去リテ、暮スノガ人生ニ活キガイ有ル生活デアアル。

今回拙院ニ於テ來ル十月十一日(舊九月節句)ニ勤ムル大布薩ノ法式ハ、等苦ヨリ暗キニ入りテ留マラザル、心馬ヲシテ快樂ナラシメ、不知ノ罪ヲ消滅シ、心身清淨ノ日送ラシテ、自己ノ希望ト願力トヲ充實ナラシメ、以テ實社會ニ有効化セシムルノ法要デアアル。

乞フ十方ノ諸賢者、一日ノ懺悔ガ、永久自己ノ生命ヲシテ清淨ナラシムルノ、元素タルコトヲ、了知セラレテ、此ノ一會ノ法雨ニ浴セラレンコトヲ希望スルト共ニ切ニ御勸メスル次第デス。

法要當日ニハ、玉の湯、壽湯ノ二ヶ所ニ香湯ガ沸シテ有リマス、御參詣ノ御方へ、香湯券ヲ差シ上ゲマスカラ隨意御入湯下サイマセ

昭和四年仲秋之日

献玉山 寶積院

十方諸賢者

名古屋の寺院に関する木版資料について(七)

◆ 大布薩宣伝

罪有りト知ラバ、將ニ懺悔スベシ、懺悔セザレバ罪益々深シト、仏ノ訓誡シ玉フ所ナリ。吾等オ互ハ、不知ノ間ニ、無限ノ罪ヲ造リテ、苦ヨリ苦ニ入りテ決シテ他ヨリ、罪ヲ持チ來ルニ非ラズ。疑心即之罪ト、此ノ罪ヲ例ヒ一日タリトモ、抜キ去リテ、暮スノガ人生ニ活キガイ有ル生活デアアル。

今回拙院ニ於テ來ル十月十一日(旧九月節句)ニ勤ムル大布薩ノ法式ハ、等苦ヨリ暗キニ入りテ留マラザル、心馬ヲシテ快樂ナラシメ、不知ノ罪ヲ消滅シ、心身清淨ノ日送ラシテ、自己ノ希望ト願力トヲ充實ナラシメ、以テ實社會ニ有効化セシムルノ法要デアアル。

乞フ十方ノ諸賢者、一日ノ懺悔ガ、永久自己ノ生命ヲシテ清淨ナラシムルノ、元素タルコトヲ、了知セラレテ、此ノ一會ノ法雨ニ浴セラレンコトヲ希望スルト共ニ切ニ御勸メスル次第デス。

法要當日ニハ、玉の湯、壽湯ノ二ヶ所ニ香湯ガ沸シテ有リマス、御參詣ノ御方へ、香湯券ヲ差シ上ゲマスカラ隨意御入湯下サイマセ

昭和四年仲秋之日

献玉山宝積院

十方諸賢者

十五、天医山東高寺薬師如来之御縁起

本尊志賀薬師
如来御縁起 開帳紀念

伸一絶 偈云

威徳巍々薬王地 東高堂閣聳雲霄
浄瑠璃界在_二今_一 風雨調順冠_二聖堯_一

寛永十七庚辰年霜月吉祥日 東高寺三世祝公牛泉代

古井村 光昌院現住幽谷和南 誌之

一 三軒半ノ別堂建立 寛永十七年八月八日開帳 霜月八日閉帳

一 古本堂五間半建立天明年間 天保十四年九月八日開帳 閏八月十三日閉帳

一 六間半ノ本堂改築 大正三年五月四日開帳 同月十日閉帳

一 大正十五年四月二日開帳 同月八日閉帳

(本尊安置シテヨリ昭和七年至三百五十三年也)

愛知県名古屋市区西志賀町

天医山東高寺薬師如来之御縁起

當寺境内別堂本尊薬師瑠璃光如来の尊像は御身丈一尺二寸座像。聖徳太子二刀三札之御作也。

聖徳太子二刀三札之御作也。

御由來を尋奉るに、

人皇三十二代用明天皇

天皇の御宇、丁未の年天下大飢饉疫病はやり人畜鳥類に

いたるまで過半死に及ぶ故ゆゑに、聖徳太子世を憐

み、此の尊像を彫刻し江州志賀の里に一字を造立して御安

置あそばされ、一度拝する輩は現當二世之利益を蒙り、

諸願満足する事は鏡に影のうつるが如し。去る大同年中の

頃ろ、叡山に一人の兒子あり、過去の悪業報い来るにや癩

病を惱ひ百薬手を尽せども更に験なし、日々肌うるみ手

足腐りければ、兒子心に思ゑらく悪病は皆是宿世の業な

れば医薬は効なきこと道理なり。然ば仏の力を頼まんに

は然んと。即ち此薬師如来に打向い幼少心の一筋に祈け

れば既に壹百日に満れども験なければ余悲に南

無薬師衆病悉除の願を立て

名古屋の寺院に関する木版資料について(七)

身より仏の名こそをしけむ

と侍りければ、本尊御厨子の内より微妙の音聲にて

むら雨はたゞ一通り跡もなし

己が身のかさそこにぬきおけ

と詠じ玉ふ。童児奇意の思をなし心信肝に銘じ我身を顧み

れば、其病は一時に瘉り喜悅の涙たを流し、彌々信心厚く

此の如く靈験日々に新にして貴賤貧富の隔てなく専ら渴仰

し奉り。九百八十余年の間江州志賀の里に在ませし

が、人皇百七代正親町天皇の御宇、元龜二辛未の年

織田信長公叡山を焼払い玉ふ時、御本尊の靈夢に依て東高坊

此尊像を負ひ奉り。生国奥州田村郡三春の里へ御供仕

り。無仏世界の万民に如来の御利益を蒙しめんと欲て此

地迄来り、行暮を當郷の医師平手桃庵老方に止宿計らず病

の床に臥し種々良薬を用れども更に効なし。故に東高坊

も生死の一大事を明らめ、斯の如く如来の因縁並無き跡の

事まで念ごころに頼み置き、元龜二年未十月五日申の刻此尊

像に向い合掌して称名諸共に世寿五十三歳にて臨終正念

往生の素懷を遂られ、則ち法名は靈雲東高沙弥と号し、

平手桃庵老も念頃ねんころに追善ついでんを營辦いとなみ會者あひまは又當またまに滅すべし。會あても離はなれざること終ついに得うべからずと。仏ほとけの金言きんげん人間にんげん一生いっしょうは夢ゆめの如ごとく幻まぼろしと無常むじょうを觀かんじ医療いりやうを專もつぱらとせしが、此この志し賀郷がむらに留とまり玉たまふことは宿世しゆくせの御因縁ごいんねんとや。薬師やくし如来にらいの御利益ごりやくにて彼かの療治りやうじも格別かくべつにいたし信心しんしんする輩ともがらは立所たてどころに諸もろく病やまい平癒なをりせしこと揚あげ難がたし。中な就く昔むかしより乳米にうまいと名なて本ほん尊ぞんに奉たてまつる仏餉ぶつじやう米まいの内うちを少すこし借かりて粥かじに焚食たきしやくすれば乳出ちいづること神妙しんぼうなり。故ゆへに信心しんしん帰依ききの輩ともがら、志こゝろを一いつにして小堂こどう一字いちご(最初別堂しよじゆべつどうの事)を建立こんりうして此この尊像そんざうを安置あんちし奉たてまつり諸人しよにん呼よびて志賀しや薬師やくしと申もうし奉たてまつるなり。則すなはち平手桃ひらてと庵う老らう倅せに向むかひ、某それがしは故こと有ありて古井村ふるいむら福昌院ふくしやういんの弟子でしとなり剃てい髮はつして薰庵くんあん芳公ほうこう首座しゆざと号ごうし寺てらを天医てんい山東しやんと高寺かうじと稱しやうす。漸ようやく當郷このむらに御安置おまつりありしより今寛永いまかんえい十七じち庚辰かうしん年ねん迄まで七十年しちじゆねんの星霜せいそうを経ふると云いう雖いふも靈驗れいげん益々ますます新成あらたなるに付つき、今般こんご又また壹宇いちうを改築かいちくして無縁むゑん之の輩ら、結縁けちゑんの為ため當八月ためい八日はちにちより同十一月おなじく十八日じゆはちにち迄まで壹百日いちひやくにちの間開帳あひだかせしむるなり。忝かたじけなくも聖徳太子しやうとくたいし御彫刻おちやうかくあらせられしより當辰いまたつし年ねん迄まで一千九十年よねんに及およぶ。正しやう身しんの薬師やくし如来にらいを目下もくかに拜おがまし奉たてまつり現當げんたう二世にせ之の御利益ごりやくを蒙こうむる

ことは、偏ひとえに東高坊とうかうぼう此この地ち迄まで御供おんこう致いたされしは誠まことに根熟こんじやく因縁いんねんの然しかしむる所ところなり。

夫我等それわれら清きよき鷲嶺じゆりやうの秋月あきづき遠とほく二千

類るい百ひやくの天てんに隱かくれ、馨こうぼしき龍華りゆうげの春はるの風かぜは遙はるかに五十億ごじゆおく万まんの歳としを隔へだつる澆季ぎやうきの運うんに生しやうを受け身みは、二仏にぶつの中間ちゆうかんにありながら遭難あわかたき仏ほとけに値あひ奉たてまつり生死しじゆ長夜じやうやの苦くるしみをまぬかれ、現世げんせ安穩あんゑん無病むび息才いきさい万民まんみん長久ちやうきう子孫しよん繁榮はんゑい福寿ふくじゆ無量むりやうの快樂からくを得うることは是こゝろ偏ひとへに瑠璃るり光こう如来にらいの恩光おんこうにあらざや。

古徳ことくの曰いはく日本にほんを七仏ひちぶつ薬師やくしの浄土じやうどと云いふ。諸国しよこくを七道しちどうに分わかち都みやこの口くちを七ななつに分わかつ事ことも七仏ひちぶつ薬師やくしの浄土じやうどなる故ゆへなり。是これを以もつて我朝わがしやう佛法ぶつぽうの元祖げんぞ 聖徳太子しやうとくたいし初はじめてて御建立ごこんりうの龍田たつた法隆寺ほうりゆうじも御本尊ごほんぞんは薬師やくし如来にらいの尊像そんざうを御安置おんまつりし玉たまへり。亦また山王さんわう七社しちしゃの内うち二宮にのみやは本地ほんぢ薬師やくし如来にらいなり。此この秋津州あきつしゆの地主ぢぬしなるが故ゆへに地主ぢぬし護現ごげんと申まうすとかや。此等これらの説せつに依よれば、身みを和国わこく

に受うくる者は別べつして有縁うゑんの仏ほとけなれば心こころを尽つくして帰依きえし奉たてまつるべきものなり。猶なほ又また女人にょにんの御方おかたは、出產しゆつさんの時とき生死しやうじの境さかいめなれば如来にらいも是これを憐あはれれみ十二じふにの大願だいがんに委くわく説玉せつたまへり。忝かたじけなくも一度いちど拜はいする輩ともがらは洩もらさす述すくい玉たまふとの御誓願おせいがんなれば、何もいづれ称名しやうみやう諸共しよごに近ちかふ寄よりて拜礼はいらいを遂とげられ與よ。

右は依古記録記之者也

薬師瑠璃光如来本願功德経 日(利益證明を挙ぐ)

薬師如来本菩薩道を行する時、十二の大願発して諸の有情をして求る所皆得しむると云々(十二の大願は経に依するへし)。又曰く薬師如来に十二薬叉大将あり。俱に一一各七千の薬叉あり。以て眷属となす同時に声を挙て仏に白て言く。世尊我等今は仏の威力を蒙て世尊薬師瑠璃光如来の名号を聞ことを得たり。復更に悪趣之怖あらず、我等相率て皆同く一心に乃至尽形仏法僧に帰依し誓て一切の有情を荷負て為に義利を作し饒益し安楽にすべしと云々。

東高現董十九世 近藤良範

敬誌

右為結縁供施品